

実感が上昇した分野

6 「心身の健康」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.20 点であり、基準年調査より 0.20 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「40～49 歳」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「3 人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 8 のとおりでした。

表 8 「心身の健康」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4 - H31
県計		3.00	3.20	0.20
性別	男性	2.97	3.21	0.23
	女性	3.03	3.20	0.17
年代	30～39 歳	2.80	3.16	0.36
	40～49 歳	2.85	3.09	0.24
	50～59 歳	2.90	3.10	0.20
	60～69 歳	3.05	3.21	0.16
	70 歳以上	3.13	3.29	0.16
職業	会社役員・団体役員	3.02	3.28	0.26
	常用雇用者	2.91	3.17	0.26
	専業主婦・主夫	3.07	3.38	0.31
	60 歳以上の無職	2.90	3.09	0.19
世帯構成	夫婦のみ	3.12	3.33	0.21
	2 世代世帯	3.00	3.17	0.18
	3 世代世帯	3.01	3.31	0.30
子の人数	1 人	2.96	3.15	0.19
	2 人	3.13	3.27	0.13
	3 人	3.02	3.29	0.27
	4 人以上	2.83	3.26	0.43
	子どもはない	2.82	3.06	0.24
居住年数	10 年未満	3.10	3.58	0.48
	20 年以上	2.98	3.18	0.20
広域振興圏	県央広域振興圏	3.09	3.21	0.12
	県南広域振興圏	2.92	3.24	0.32
	沿岸広域振興圏	2.96	3.21	0.25

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 8 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 実感の変動については、「心身の健康」で把握しているが、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」については、「からだの健康」と「こころの健康」に分けて調査を行っている。そこで、理由の分析に当たっては、調査で実感が上昇した人の回答理由は以下のとおりでした。

【からだ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- (イ) 健康診断の結果
- (ウ) こころの健康状態

【こころ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
 - (イ) からだの健康状態
 - (ウ) 仕事・学業におけるストレスの有無
 - (エ) 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、からだの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）」「健康診断の結果」「こころの健康状態」であり、こころの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）」「からだの健康状態」「仕事・学業におけるストレスの有無」「仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。